

農業技術情報

令和元年10月1日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所	015-572-3128
J A幕別町	0155-54-4118
J Aさつない	56-2131
J A帯広大正	64-4591
日甜幕別原料事務所	54-2756
幕別町農林課	54-6605

各作物の生育・作業の遅速（幕別町10月1日）（ ）内は平年値（※前年値）

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	早6	草丈 1.5(0.0)cm 葉数 1.0(0.0)枚 茎数 81(0)本/m ² は種始 9/18(9/23) は種期 9/22(9/28) は種終 9/30(10/7)	出芽期 10/1(10/7)
馬鈴しょ	—	収穫期 9/10(9/17) 収穫終 (10/7)	
大豆	早4	茎長 80.1 (68.9)cm 葉数 10.0(9.1)枚 莢数 580.8(520.0)個/m ² 主茎節数 12.0(11.1)	成熟期 9/30(10/4)
小豆	遅5	茎長 55.1 (57.0)cm 葉数 11.9(11.4)枚 莢数 280.4(392.2)個/m ² 主茎節数 12.9(12.4)	成熟期 9/25(9/20)
菜豆(金時)	—	収穫期 9/16(9/18) 収穫終 9/25(9/26)	
てんさい(移植)	早5	根周 41.2(37.9)cm	
てんさい(直播)	—	根周 29.8(※33.7)cm	
牧草	—	収穫終 9/19(9/20)	
飼料用とうもろこし	遅	稈長 275.9(278.9)cm 収穫期 9/21(9/22)	黄熟期 9/16(9/17)
ながいも(マルチ)	早2	種子重 17.6(21.2)g 茎葉重 518.9(540.3)g いも長 74.4(78.0)cm いも重 1,191(1,162)g いも径 69.2(65.6)mm 首長 23.2(22.1)cm 乾物率 13.9(12.2)%	
たまねぎ	—	収穫期 9/19(9/19) 収穫終 10/1(10/6)	

畑作

<秋まき小麦>

1 10月上旬以降（9/17付技術情報表2以降）の極端な遅まきとなる場合の留意事項

① は種量は12.5kg/10a（288粒/m²）を限度にやや多めとする。

※収量確保の目安として越冬前茎数370本/m²（「北海道の小麦づくり」出典）を目標に、千粒重43g（本年値）、ほ場の出芽率を85%として計算。

② ほ場が過湿な条件での作業は避け、排水対策を徹底する。

※は種直後2～3日以内であれば、ほ場内明きよの施工（ほ場内に溝を掘り地表面の余分な水を溝に集めほ場外へ排出する方法）や、は種後のサブソイラの施工も有効です。

2 雑草対策

イネ科雑草を抑制できるのは秋期だけです。特に連作の場合はイネ科雑草の増加が懸念されます。また出芽後の除草剤散布は効果が劣る場合があるので、できる限りは種直後に土壌処理を実施しましょう（9/17付技術情報表3参照）。

<てんさい>

(1) 収穫時・貯蔵時の注意点

ア 収穫時の注意点

- ・タッピングは切り過ぎないように調整しましょう。
- ・収穫作業は輸送計画に基づき集荷日の前日迄に終了しましょう。
- ・根腐症状個体を可能な限り取り除きましょう。

イ 貯蔵時の注意点

収穫したてんさいを堆積・貯蔵する場合は、必ずシートで被覆し、乾燥・凍結を防止しましょう。また、降雨流入による腐敗を防ぐため、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も行いましょう。

(2) 次年度産移植栽培の床土の準備

病気の恐れのない健全な土を用意し、pH測定を実施し目標pH 6.0～6.5になるよう粉状炭カルにより酸度矯正をしましょう。

<豆類>

登熟状況と天候を鑑み、適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

1 小豆の収穫

成熟期は平年より5日遅れています。収穫適期の目安は、「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう。

表1 小豆の収穫適期の目安（H14・H16中央農試 H9 十勝農試）

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫		熟莢率 80%、子実水分 25% 程度
ダイレクト収穫	100%（子実水分16～18%） 完熟期（熟莢率 100%） から 2 週間以内	豆用コンバイン（2条）～熟莢率 80%、 子実水分 25% 程度

2 大豆の収穫

ア 汚粒対策

わい化病や雑草（特に紫色の実をつけるイヌホオズキ）は、事前に抜き取っておきましょう。また、土砂の混入も汚粒の原因となるので、倒伏がみられるほ場や培土の高いほ場では刈り高さに注意して収穫作業を進めましょう。

イ 収穫適期

刈り取り時期も汚粒の発生に影響します。刈り取り時期は熟莢率が100%となり、子実水分が20%以下（最適は16%以下）の時とし、莢表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。可能な限り適期収穫を心がけましょう。

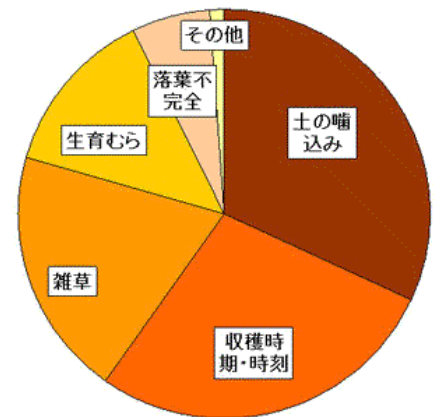


図1 汚粒の発生要因
(「大豆の機械化栽培とコンバインの収穫事例集」より)

< 緑肥のすき込み >

緑肥のすき込みが遅れると、分解が遅れたり次年度以降雑草化する場合があります。緑肥が結実する前（出穂または開花後7～10日を目安）で温度がある時期（遅くとも10月下旬まで）にすき込みましょう。

特に「ひまわり」は、花蕾に菌核病が発生することがあり、後作に「ばれいしょ」、「豆类」、「野菜類（白菜、キャベツ、レタス等）」を作付する場合は、開花前にすき込んでください。

野菜

＜ながいも＞

（１）10月1日現在の作況調査（マルチ栽培）

- ・ いも重は1191.3g（平年比103%）、いも径は69.2mm（105%）と平年を上回っています。また、乾物率も13.9%（平年値12.2%）と充実が進んでいます。

（２）つる切り、つる降ろし

- ・ つる切り、つる降ろしについては、茎葉が黄変した後に実施してください。また、実施前に必ず試し掘りを行って、尻部が丸く硬くなっていることを確認してから行いましょう。
- ・ 茎葉黄変になる前に霜を受けたほ場では、10月20日以降につる切りを行ってください。

※2006年に東部管内で実施した調査で、10月20日以前（茎葉黄変前）に強い霜を受けて茎葉が枯死しても、いもへの養分転流は進むことが確認されています。

- ・ いも傷や折れの発生を抑えるために、つる切り、つる降ろしから収穫までの期間は10日間以上あけて、いも表皮の登熟を図ってください。

（３）収穫の注意点

- ・ 腐敗いもやクズいもの放置は土壌病害拡大の原因となるため、ほ場外へ搬出して処分してください。

＜はくさい＞

（１）べと病、黒斑病、白斑病の防除

引き続き、べと病や黒斑病、白斑病の発生に注意し、防除を行ってください。

※薬剤については、「平成31年度農作物病害虫防除基準」を参照。

（２）害虫防除

気温が低くなりアブラムシ類やヨトウガが結球内部に入りやすくなるため、結球内部に入る前に防除を行いましょ。

※薬剤については、「平成31年度農作物病害虫防除基準」を参照。

＜たまねぎ＞

（１）有機物（堆肥）の投入

現状の地力を維持するためには、堆肥で2～3t/10aが必要とされています。堆肥等の有機物を投入し、気象変動に対応できる土づくりに努めましょう。

（２）透排水性の改善

収穫や収穫物の搬送作業など、大型機械による踏圧により透排水性が悪化しています。コンテナ搬出後にサブソイラ等による心土破碎を実施しましょう。

（３）土壌改良資材の施用

- ・ たまねぎの適正pHは6.0～6.5、有効態りん酸は60mg～80mg/100gです。
- ・ 低pHやりん酸不足は、定植後の初期生育の遅れや葉先枯れ、登熟の遅れ等、

生育に影響があります。また、りん酸の過剰は茎葉の早期枯れ上がりの原因となり減収につながります。

- ・ 土壌診断を実施し、健全なほ場管理を行ってください。りん酸、加里の蓄積が見られる場合は、減肥銘柄の選定により施肥バランスの改善を図ってください。

(4) 来年の苗床準備

- ・ 熟畑化した苗床は、有効態りん酸や加里の蓄積により土壌養分のバランスがくずれ、育苗中に生育障害が発生しやすくなります。
- ・ 事前に苗床のpH、ECを測定して、土壌分析値に基づいた土壌改良および適正施肥を行ってください。

(5) 融雪水の対策

ハウス周辺からの融雪水の侵入に注意が必要です。ハウス周辺の明きょ設置やハウスビニールの縁の埋設などの対策を行ってください。

日没が早まり視界もすぐに悪くなります。

薄暗がりでは機械の周辺で作業する人が見えにくくなります。

クラクションを鳴らし、周囲に合図してからゆっくり発進するようにしましょう。

- ・ 公道を通行する場合は、早めにライトをつけ、夜光反射板や低速車マークを装着しましょう。
- ・ 収穫機の調整や詰まりものは、必ずエンジンを止めてから除去しましょう。
- ・ 衣服の袖口や裾はボタン・ファスナー止めをして、身体に密着させましょう。
- ・ 靴やステップが泥の付着により滑りやすくなっています。機械ステップの昇降時は、十分注意しましょう。

※収穫残さ物のほ場での焼却は止めて堆肥化に努めましょう。

